

グローバル 30 の最近の動向



海外交流

菊野 亨*

Internationalization of Osaka University under the "Global 30" project

Key Words : international programs, degree programs, support office

グローバル化が深化する中で、世界で通用する人材を育てないと日本はやっていけないことは明らかだ。それを支援する文部科学省の事業がグローバル 30 である。グローバル 30 は元々は「平成 21 年度国際化拠点整備事業（グローバル 30）」の略称であった。この整備事業は 5 年間継続することになっていたが、いわゆる事業仕分けによって昨年度「いったん廃止し、組み立て直す」ことになった。結果的に、現在の事業は「平成 23 年度国際化拠点整備事業（大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業）」と呼ばれている。

ここではグローバル 30 によって、2009 年からの 3 年間で、大阪大学がどのように国際化拠点整備を行っているかについて紹介する。

1. グローバル 30 の採択（2009 年）

この整備事業では、海外の学生が日本に留学しやすい環境を提供するために次の事項への取組を求めている。

- ① 英語による授業等の実施体制の構築
英語で授業を受け、英語で学位が取得できるような体制の整備
- ② 留学生受入れのための環境整備
留学生に対する専門スタッフによる生活支援、



*Toru KIKUNO

1947年9月生
大阪大学 基礎工学部 制御工学科
(1970年)
現在、大阪大学大学院情報科学研究科
教授 工学博士
国際教育交流センター長
TEL : 06-6879-4535
FAX : 06-6879-4539
E-mail : kikuno@ist.osaka-u.ac.jp



日本語教育、就職支援の実施、4月以外の入学時期の促進

③ 戦略的な国際連携の推進

留学生を受入れるためのワンストップサービスを行う海外拠点の設置など。

しかも、留学生数と現行数からの倍率、外国人教員数と全教員に対する比率、新設の英語コース数（学部と大学院）について具体的に達成目標（数値目標）の提示が求められている。2009年7月に、東北大学、筑波大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学、慶応義塾大学、上智大学、明治大学、早稲田大学、同志社大学、立命館大学の13大学が採択された。

2. 大阪大学の主な取組（2009年、2010年）

2.1 英語による授業のみで学位を取得できる学部コースの設置

- ① 化学・生物学複合メジャーコース：理学部、工学部、基礎工学部が共同して設置する少人数国際オーナープログラムコースで、化学と生物学の融合分野で国際的にトップレベルで活躍できる人材育成を目指す。

2010年10月に開講し、13名の新入生を迎えてスタートした。新入生の国籍は中国6名、中国(マカオ)2名、日本2名、アメリカ1名、ポルトガル1名、韓国1名となっている。

- ②人間科学コース：人間科学部が開設するコースで、「地球市民」と「現代日本理解」の2つのメジャーのいずれかを専攻する。急速に変化しグローバル化する現代社会の諸課題に対して、主体的に向き合い、問題解決のために必要な教養と実践力および専門性を備えた人材育成を目指す。

2011年10月からのスタートを予定しており、入試の合格者10名が発表されたところである。

なお、学部英語コースに関する入試・広報、教務および人事を専任で行う教職員を配置したインターナショナルカレッジが設置されている。

2.2 留学生受入れのための環境整備

- ①国際教育交流センターの設置：既設の留学生センターを発展的に改組して、国際教育交流センターとした。新センターには短期受入れプログラムの開発研究、日本語教育研究、交流・アドバイジング研究のチームを設けた。留学生増加に対応できるように各チームの相互支援を可能にした。日本語教育、交流・生活指導、アドバイス等の活動のより一層の強化と共に、全学的な短期受入れ・派遣プログラムの企画ならびに部局プログラムの企画・推進・支援に重点的に取り組んでいる。
- ②サポートオフィスの拡充・強化：既設のサポートオフィスを国際教育交流センター内に置くこととし、職員に加えて教員を配置して、留学生、外国人研究者の飛躍的増加に対応できるようにした。特に、ビザ取得業務の支援、宿舍の斡旋、留学生のケア、キャリア形成(就職)支援の拡充・強化に取り組んでいる。更に、留学生、外国人研究者向けのハンドブックを作成し、配布している。また受入れる教職員に役立つハンドブックも作成し、説明会、研修会を開催している。

2.3 達成目標

2008年度に1385名であった留学生数を、2010年度末で約1500名、2013年度末で約2000名、2020年度末で3000名を達成することを目標とした。実績としては2011年で1780名を受入れており、順調に伸ばしている。

外国人教員については、グローバル30による新規雇用も含めて、2020年度末で全教員の7%を目標とした。

3. 大阪大学の計画(2011年)

組み立て直し後の修正変更された構想調書では次の3つが新規に加えられている。

- ① 英語コースのオープン化：英語コースで提供する科目を、広く学内の日本人一般学生の受講を可能にするように努める。
- ② 他大学との提携の強化：近隣のグローバル30採択大学(大阪大学、京都大学、同志社大学、立命館大学)による「グローバル30関西地区連絡会」を開催し、各大学の国際化への取組みに関する情報共有の緊密化を図る。また、大阪大学、神戸大学、関西大学、関西学院大学による「阪神地区ネットワーク」を結成し、国際化に関する各大学の取組について、共同ウェブサイト「JUMP」も活用しつつ、情報共有・業務連携を進める。合わせて、ネットワーク大学の間で留学生の交流を進める。
- ③ 産学連携の強化：関西産業界との連携事業として「学生グローバルコンピテンス・ワークショップ」を開催する。また、企業、経済団体等産業界との連携を密にして、教育面で産業界の人材育成上のニーズをよりよく反映すると同時に、留学生の就職・キャリア形成の支援をより強化する。

有能な学生の獲得競争が世界レベルで行われている中で、大阪大学が生き残るためにもこれまでの活動を継続・発展させることが必要である。